



●都市整備委員会所管質疑

野川流域対策について

◆福田たえ美 委員

続いて、福田から質問させていただきます。

まず初めに、野川流域対策について伺ってまいります。

先ほども他会派からございましたが、二月二十二日に喜多見東地区会館にて開催されました外環道東名ジャンクション周辺地区地区計画等（素案）の見直しに向けた意見交換会に参加してまいりました。参加者からは、一番の関心事だったのか、豪雨対策について、このことをまちづくりの中にしっかり入れていただきたいといった趣旨や御意見が出ました。平成十七年の大雨により野川周辺の地域では二百世帯以上が浸水被害を受け、その後、東京都により、野川の護岸整備、流域対策が講じられていましたが、気候変動に伴う災害の激甚化、頻発化により、令和元年台風十九号が世田谷区に大きな爪痕を残しました。

令和四年版の国土交通白書では、紀元後二千年の歴史に例を見ない地球温暖化の進行がもたらす災害の激甚化、頻発化への対応に治水計画や対策の見直しの重要性が掲げられています。令和三年十二月の定例会で野川の流域対策の質問をしてまいりましたが、改めてここで聞きしてまいります。

東京外かく環状道路の工事は、野川に隣接する東名ジャンクションから東名高速道路に接続されています。高速道路の機能上、雨水を素早く排出する必要性から、二十メートルごとに設置された排水管から、降雨量によっては何百トンを超える雨水が野川に流れ出ます。野川への雨水流出抑制機能として、東名高速道路の高架下に雨水貯留施設の整備を事業者働きかけることを求めてまいりましたが、改めて求めてまいります。区の見解を伺います。

◎鎌田 工事第二課長

区では、近年頻発している局所的な集中豪雨から区民の生命と財産を守り、水害に強い安全・安心のまち世田谷を目指して、平成二十八年三月に世田谷区豪雨対策基本方針、令和四年三月に世田谷区豪雨対策行動計画を改定し、豪雨対策に取り組んできております。行動計画では、東名高速道路などの高速道路事業者の管理する施設については、新設や改修時には世田谷区雨水流出抑制施設の設置に関する指導要綱に基づき、流域対策を行うよう要請していくと定めております。公共施設である東名高速道路の高架部に降った雨は、雨どいを通じて、地表部にある東名高速道路の敷地内にある排水施設に流れ込んでおり、適切な雨水処理を行っておりますが、雨水貯留浸透施設の設置は行っておりません。区の役割といたしまして、公共施設や民間施設における雨水貯留浸透施設の設置等を推進、促進する流域対策を担って

いることから、NEXCO中日本に対し、大規模改修計画等の際には雨水流出抑制対策への協力を要請してまいります。

#### ◆福田たえ美 委員

東京都が野川流域豪雨対策計画として示していますのは、東名ジャンクション付近の新井橋から上流の谷戸橋手前までの世田谷区間を含む野川流域の調節池等の整備を予定されております。これについても都に働きかけることを以前求めてまいりましたが、今回改めて働きかけをしていただきたいと思います。区の見解を伺います。

#### ◎鎌田 豪雨対策・下水道整備課長

東京都では、野川と仙川を含む野川流域において、時間六十五ミリ降雨に対応する整備を進めております。このうち時間五十ミリ降雨に対応する部分につきましては、河道掘削など流下施設による河川整備により対応し、時間五ミリ降雨を調節池等の貯留施設で、時間十ミリ降雨を流域対策により対応することとしております。野川の調節池の整備につきましては、小金井市内の野川第一調節池、野川第二調節池、三鷹市内の野川大沢調整池が既に完了しており、合計で二十万七千立方メートルの貯留量となっております。

また、河道掘削につきましては、世田谷区内の工事は令和元年度に完了しており、現在は上流側の調布市西つつじヶ四丁目地先の小金橋下流まで工事が進められております。

区といたしましては、調節池等の整備につきまして、引き続き関係自治体と連携し、整備効果の高い箇所から優先して整備を行うなど、東京都に対し要望してまいります。

#### ◆福田たえ美 委員

世田谷区は大きな場所を取ることが大変難しいというふうにも想像いたします。

そこで、世田谷区立の次大夫堀公園ですが、ここは野川から水を引き込んで、それを浄化して、また野川に流していくような仕組みが取り込まれておりますので、こういった次大夫堀公園の野川の水を引き込み、一旦ためている機能を十分に発揮していただくことで野川流域対策の一助となると考えますが、区の見解を伺います。

#### ◎岸本 公園緑地課長

次大夫堀公園につきましては、せせらぎや水田、民家園などの昔ながらの地域風景や生活を再現した施設や土と触れ合える農園などがあり、日常の公園利用に加えて、近隣の幼稚園や保育園、小学校の生徒たちとの田植えや稲刈りをはじめ、地元に基づいた歴史あるイベントの開催もあるところでございます。また、公園内を縦断する全長約六百メートルあるせせらぎにつきましては、野川から引き込んだ水をポンプでくみ上げ、大型のろ過水槽を経た後、園内の水田や池を潤しながら、最終的に野川へ戻しているところです。

洪水対策に資する貯水施設設置の可能性がある区域としましては、歴史的価値のある民家園に影響させてはいけないことを考慮すれば、ろ過水槽が設置されている野川の取水ポンプ近くの区域に限られるところでございますが、工事ヤードの確保やせせらぎ機能への影響な

ど、技術的な課題も多くあるものと考えております。

◆福田たえ美 委員

ぜひとも課題を乗り越えながら進めていただきたいと思います。

そこで、世田谷区豪雨対策行動計画におきましては、区内が五つの流域に分かれており、それぞれ時間約十ミリ以上の降雨の流出抑制の目標を掲げております。その場合には、国、都、区の公共施設や公園、道路、鉄道、高速道路施設や民間施設など、各施設に合わせた対策を講じて、目標の流出抑制を図るとのことですが、この時間十ミリの目標達成時期を見ていきますと、令和五年度、令和十一年度頃には達成見込みがある流域がある一方、野川流域は目標達成見込みが約令和十九年度となっております。これでは近隣住民の不安が拭えませんので、多摩川水系流域治水にも影響を与えるという観点から、この野川流域対策の時期を早めるべきと考えますが、区の見解を伺います。

◎鎌田 豪雨対策・下水道整備課長

区では、これまで世田谷区豪雨対策行動計画に基づき、公共施設における雨水貯留浸透施設の整備のほか、民間施設における雨水浸透施設や雨水タンクの設置に係る助成を実施するなど、流域対策に取り組んでまいりました。その結果、野川流域における流域対策の実績につきましては、令和四年度末で時間七・二ミリ相当分であり、行動計画策定時に定めた将来予測値と比較して順調に推移してございます。

こうした中、行動計画の取組を後押しすることを目的の一つとしたせたがやグリーンインフラガイドラインを今年度末に策定することを予定しております。このガイドラインは、降った雨を地面に浸透させるなど、自然の力を賢く生かすグリーンインフラについて、区が公共施設の整備等に当たり積極的に取り組むための指針と区民や事業者などがそれぞれの立場で取り組むための指針を示したものでございます。このガイドラインなども活用しながら、公共施設における雨水貯留浸透施設の整備はもとより、区民や事業者などによるグリーンインフラの取組の助成制度も活用しながら支援、促進することで、時間十ミリ相当の流域対策の早期実現を目指して取り組んでまいります。

駐輪対策について

◆福田たえ美 委員

ぜひよろしく願いいたします。

最後に、駐輪対策について伺ってまいります。

最近、二子玉川駅を利用する通勤通学の区民の方から、駐輪場の定期利用枠の拡充を求める声を多くいただくようになりました。平成二十九年度に区立二子玉川西自転車等駐車を五百台増設していただきましたが、その後も、砧地域の喜多見、宇奈根、鎌田、大蔵、岡本の地域は宅地化がどんどん進み、人口が増加する一方で、バス路線の廃止や変更、通勤通学時の多摩堤通りの渋滞を回避するといった行動を取るためには、自転車通勤を選択せざるを得ない環境になっております。民間の駐輪場だけを見れば約四千台を超えて、十分かと思ひ

ますが、定期利用枠に関しては全て満車、一時利用は通勤通学の時間帯の利用によるミスマッチが潜在的に駐輪場の不足を生み出しています。

ここで伺いますが、二子玉川の駐輪場の月ぎめ定期利用の枠の拡充を求める声が届いていますが、現在の区立駐輪場の予約待ちの状況を伺います。

#### ◎村田 交通安全自転車課長

二子玉川駅周辺の区立駐輪場につきましては、国の土地を活用して、二子玉川西及び二子玉川西多摩堤の二か所にて運営を行っており、各駐輪場の定期利用可能台数は、二子玉川西が千三百九十五台、二子玉川西多摩堤が百六十九台となっています。いずれの駐輪場も定期利用分はいっぱいになっており、現在予約待ちいただいている人数は、二子玉川西が約百四十名、二子玉川西多摩堤が約三十名となっています。

なお、各駐輪場の予約状況から、予約待ちが一年を超える場合は指定管理者が受付の一時中止の判断を行っておりまして、現在、二子玉川西は受付を中止している状況でございます。

#### ◆福田たえ美 委員

今は予約さえもできないということで、もう全く希望がないような状況になっているということだと思います。

そこで、二子玉川に新たな駐輪場の整備が難しいということは十分理解しておりますので、国や都、また、区のこういった公共の土地を有効活用して、定期利用の枠を少しでも確保すべきと考えますが、区の見解を伺います。

#### ◎村田 交通安全自転車課長

二子玉川駅周辺の駐輪場の整備状況につきましては、平成二十九年度に区立二子玉川西駐輪場を改修して、収容台数の増加を図ったほか、駅東側の再開発により多くの民営駐輪場が整備されています。しかしながら、喜多見や宇奈根等の西側方面からの自転車アクセスの増加に伴い、駐輪場の定期利用は区立及び民営ともに利用率が高い状況にございます。

区といたしましては、新たな駐輪場整備のための用地確保が難しい状況にあることから、国に対し、国道などの公共用地をさらに活用した駐輪場の可能性を相談するほか、民営駐輪場の整備費用助成や民間シェアサイクルの活用等、民間事業者との連携も含めて駐輪環境の向上に努めてまいります。

#### ◆福田たえ美 委員

私からの質疑を終え、いたい委員に替わります。